

タウンミーティング 議事要約

テーマ：市川市のごみ処理について

日時：平成 30 年 11 月 4 日（日）午前 10 時～午前 11 時 30 分

場所：大野公民館 多目的研修ホール

参加者：約 20 人

<1>ごみや分別への意識について

参加者：

収集体制見直し（案）の方向性は良いと思うが、以前から行われている分別収集に対する市民の意識の低さに驚いている。ペットボトルやプラスチックの容器を燃やすごみに入れることは間違っており、分別しなければいけないものである。子どもへの学習、自治会での会合、自治会に入っていない人は地域で教えるなど、あらゆる機会を増やしてどうやってみんなに徹底できるかが重要と考える。

市長：

世代により、分別意識やごみについて行政に求めることが違うと感じることもある。そのため、子どもが学び、親に教えることが効果的な場合もあると思うし、自治会を通じた周知をどうやって高めていくのかも重要と考える。

<2>収集体制（案）について

参加者：

燃やさないごみを週 1 回のペースに戻すのはおかしい。夏場の収集もごみ出しのマナーが悪くなるだけなのではないか。

市長：

様々な意見があることは認識している。外国人が増えて情報が伝わりにくくなっているという課題もある。印刷物だけでなく様々な周知手段を考えていきたい。

<3>分別したくなる動機付けについて

参加者：

啓発は大事だが限界もあると思う。カンが路上に落ちていないのは換金できるからだと思う。ペットボトルも換金できる、生ごみもある程度の量を集めてクリーンセンターに持って行くと換金できるシステムが必要なのではないか。そうすれば、近所のお年寄りの分も一緒に持って行くようなアイデアができたりすると思うので検討してほしい。

市長：

普段していないことをしてもらうことになるので、楽しくて得をすることでないとは徹底できないのではないかと思う。今後、様々に進んだ ICT の技術を行政として取り込んでいか

なければならない。マイナンバーの活用、今もあるエコポイントを携帯電話に取り込み、地域通貨にする、民間のポイントとの連携、貯まったポイントでプールに入れる、バスが割り引かれるとなれば、ごみを分別しようとなるのではないかと思う。

<4>収集体制（案）、企業のごみ減量について

参加者：

①我が家は高齢者だけなので現在の案で充分だが、若い夫婦に聞くと紙おむつが多く、夏場だけでも3回になると助かると聞くので、見直しは良いことだと思う。ビン・カンも我が家はよいが、5週目がないと次の収集までに日数がかかり空いてしまうので、週1回になると助かると聞く。

②個人だけの努力でごみの減量は進まないと思うので、企業の過剰包装への取り組みなども含めて進めていかないと、ごみは減らないと思う。パリではレジ袋を配らないと聞くので、企業とも連携して進めて行くといよいのではないかと思う。

市長：

①前回、あまりごみを出さないから、指定袋をやめてくれ、材質が一緒なのだからスーパーの袋で捨てさせてほしいという意見があった。市民生活の利便性を考えたときに、もっと簡単にごみを捨てられればよいと思った。分別の徹底、あるいは生ごみを別に分けられれば、将来的に可能なこともあるのかと思った。分別を細かく分けるというよりも、再生利用できるものを集める、臭いが出るものを何とかすれば、市民生活も便利になるしコストも抑えられると思うので、繰り返しになるが生ごみの再生利用を考えていきたい。例えば、生ごみの袋を作り一定量を配る、それ以上は有料にするという考えもある。将来的には収集回数の問題からは解放されるのではないかと考える。おむつは再生利用する方法があると聞いているし、市川市ではこれまで、保育園で出るおむつは持って帰ってくれと言っていたが、今後は保育園に置くことができるようにする。

②事業者の出すごみについては、環境大臣がレジ袋に課税すると言っていたが、そういう取り組みもしていかないといけないと思うし、食品トレイをなくしていく、ペットボトルを使わないでガラスのビンを使うなど、企業にも努力してもらって環境負荷を減らすことが必要と考える。私がパリに行ったときにも買った品物にレジ袋をくれなかった。プラスチックごみ削減のためだと思うが、自分でマイバッグなどの袋を持って来る必要があり、結果的にプラスチックごみの減量になっていくと思う。

<5>資源化への取り組み、指定袋について

参加者：

①市川市では12分別をしており、分け方を分散しているため、燃やすごみの量は減っているが、ごみの全体量は増えているはずである。資源化率も目標を達成できていない。10年以上前に近隣市もそうだが、燃やした灰を道路材にしていたのは確かだが継続できて

いない。ということは、コストパフォーマンスが望めないということであり、全国的に進んでいないのではないかと考える。それをどう効率的にやるかが問題と考える。

②市の指定袋は人によっては使いやすいと思うが、事業者の収益になっており、市にはお金が入って来ない。

③商品を販売している大元である事業者への指導を市にはお願いしたい。

市長：

①環境を守る取り組みというのは、最終的にはコストパフォーマンスの話ではないのではないかと考えている。効率が悪くても環境に対する取り組みは自治体として行わなければいけないと思う。

②、③本市のごみ袋は袋代だけで、処分代は含まれていないので、袋に処分代を盛り込むことでごみを捨てるのにお金がかかるからごみが減るということにはなると思う。批判は多いかもしれないが、ごみを減らすという意味では一番よいのではないかとし、タバコの箱にタバコは有害と書いて啓発するように、ごみ袋においてもごみの減量を訴えるなど活用方法はあると思う。

<6>収集体制（案）、生ごみ対策、市民が協力していく雰囲気作りについて

参加者：

①利用者目線と言うなら、週3回にするならば、バランスや出すのを忘れてしまうこともあるので、月・水・金や火・木・土にしてほしい。

②カラスについては、出してからタイミングを見計らって収集しないと被害に遭ってしまうため、いかにカラス被害を避けられるかと言うのが、近所で課題になっている。ネットを黄色にしたら効果があると聞いたこともあるので検討してほしい。三角コーナーからそのまま生ごみを捨てられると便利だった。今は改良されてるかもしれないが、コンポストは肥料になる前に腐ってしまうと聞いた。

③現在、教員をしているが、言わなくてもやる子、言えばやる子、言ってもやらない子に分かれる。やらない子ややらない大人はゼロにはならないが、やらなければいけない空気作りをすぐにはできないかもしれないが、市として作る必要があると思う。

市長：

①、②おむつは高齢者のものもあり、臭いが出るものをどう別集めるかというのがテーマになる。生ごみ回収ポストがあれば解決することもある。本市では、カラス対策条例を制定し、カラス被害をなくすための取り組みを行っており、近々カラスの生態調査をしようとしているが、生ごみ対策ができればカラスがごみ置場を荒らすこともなくなると思う。

③ごみを分けて減らすとこういう良いことがあるというのがわかる空気作りが大切である。ルールを守らない人は出てくるかもしれないが、環境に配慮するのはかっこ良いという雰囲気にしていくことが大切である。